

# 巳正月～亡き人のお正月～

巳正月とは、古くから伝承

されてきた愛媛独特の慣習で、  
その年に亡くなられた新仏さんを偲び、12月に入った辰の日から3日間（辰・巳・午）、家族とその親族で祝う少し早めのお正月です。

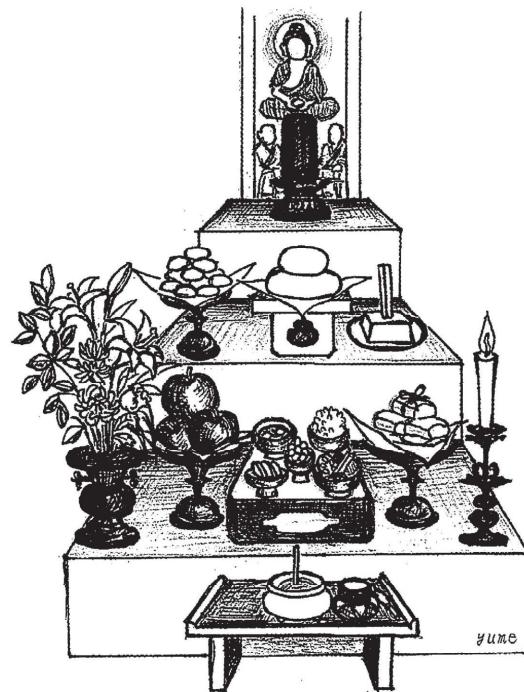
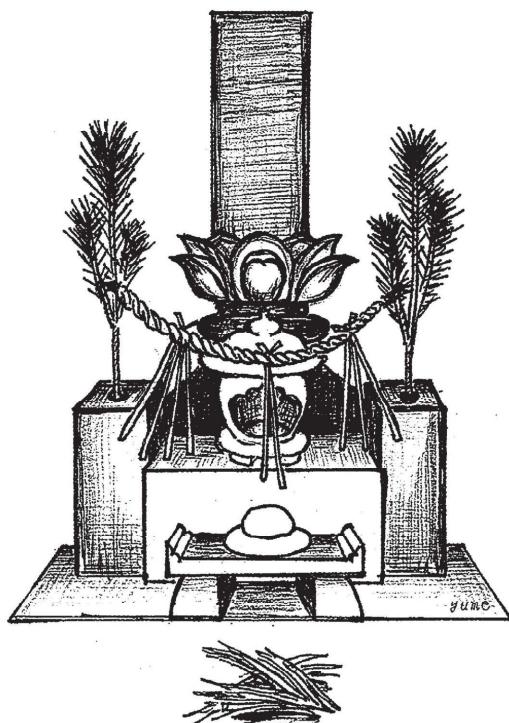
辰の日、祭壇を設けて位牌を出し、夕方になつたら、祭壇にお祀りしていた重ね餅を持つてお墓の前に行きます。そして藁を燃やして餅を炙り、親類縁者と引っ張り合いながら食べ、お墓参ります。これは、後に残つた私達も今後も一つの物を分け合うように仲良くしますので、心配しないでくださいとの想いから生まれました。その後、家に戻りお経をあげて、祭壇の豆腐で汁を作り、軽い食事を出して親族の人達に振る舞います。皆が帰るとき、お下がりとして果物や菓子と一緒に小餅を

持ち帰つてもらいます。

午の日には、巳の餅をお下がりでもらつた親族は、お正月の祝い物として、赤熨斗をつけた『おぞうもの』（かまぼこ・干物等）を届け、当家の正月を祝つてあげます。最近は内々で話し合いの上で品物にせず、赤の祝儀袋に『午の日御祝』と表書きして用意される家もある様です。

尚、これは当寺が檀信徒向けて作成した一例ですので、各地域の慣習に従つてください。

準備物は、お近くの仏具屋さんで御用意されるとよいでしょう。



## ◎ 祭壇

位牌、靈供膳、  
餅（一升重ねと小餅）  
果物、菓子、  
豆腐一丁（割箸を立てる）

## ◎ お墓

- ・しめ縄：縄を逆さにして、さがりを4本、2本、3本と垂らす。
- ・松飾り：雄松（左）と雌松（右）一対を花立に立て、しめ縄をわたす。
- ・餅と藁：藁で餅を炙る。